

## 1 研究主題

情報社会に主体的に生きる力を育む教育の研究と実践

## 2 夏季実技研修内容

- (1) 日 時 令和元年 8 月 28 日 (水) 13:30～16:00
- (2) 会 場 宇和島市立和霊小学校 6 年教室及びコンピュータ教室
- (3) 参加対象 宇和島市小・中学校情報教育主任並びに希望者
- (4) 参加者数 39 名
- (5) 内 容

研修	すぐに使えるネットワーク 講師：和霊小学校 教諭 野本 征
----	----------------------------------

### ① 研修1 「現在の市内の学校で行えるネットワーク活用術」

「すぐに使えるネットワーク」と題して、宇和島市内の小学校のネットワーク環境を最大限活用できるように会場校の和霊小学校をモデルに講義を受けた。本市は、小学校にはタブレット端末が導入されているが、無線LANが各教室に十分に整備されているとはいえない。そこで、各教室においてLANを設定するための方法やケーブルの設置方法、コンピュータ室に整備されているネットワークLANディスク内の「フリーボックス」フォルダに職員室や各教室から接続し活用することの有用性について学んだ。また、講師が算数科で行った授業実践を、模擬授業形式で受講することで、タブレット端末を用いた「主体的・対話的で深い学び」の実現や、整備されている環境を教員が進んで活用する必要性を考えることができた。



### ② 研修2 「プログラミング教育について」

授業で活用するにあたってのプログラミング教材の紹介の後、実際に機器を用いての実習を行った。「Scratch」や「プログラミン」、「Hour of Code」などを実際に体験し、授業での活用方法について考えた。はじめて体験したという先生方も多く、戸惑いの声が挙がる一方で、これならばできそうだという肯定的な意見も聞かれた。まずは多くの先生方に実際に体験していただくことの大切さを感じた。また、問題点として、現在の宇和島市内のネットワーク環境では、「Scratch」を8台で同時に起動すると回線の関係で作動しないことが分かった。「Scratch3.0」であれば、オフラインでも利用可能であり、各校のタブレット端末に確実にインストールすることの確認を行った。また、プログラミング教育の年間指導計画の整備などについても話し合うことができた。



## 3 今後の課題

新しい機器の導入やプログラミング教育の開始など、学校における情報教育を取り巻く環境は日進月歩で変化している。そこに対応しながら児童生徒にいかに指導していくかが私たち教職員には問われている。わたしたち情報教育主任から各校の先生方に伝達していくことはもちろんであるが、教職員一人一人が実践を更に深め、機器活用の研究や指導力向上のための研修を重ねていくことが必要である。